

1 政治をめざすきっかけ

私が政治の世界に飛び込んだ大きなきっかけは 9・11 事件でした。ニューヨーク世界貿易センタービルから100mも離れていないところに私と妻、当時6才の息子、3才の娘と住むアパートがありました。その日、少し遅めの出勤でいつも通りの貿易センターの角をまがったところでドーンという地響きがし、戻ってみると道には火の付いたがれきや血管で覆われた肉片が散乱していました。

つんざく悲鳴が聞こえ、ビルから人が飛び降り地面に落ちました。呆然としていたら後ろから爆音と共に2機目の飛行機が銀色の腹を見せビルに突き刺さりオレンジ色の炎が上がりました。私の頭が真っ白になりました。それから家族の安否を確認するため、必死で探し回りました。ビルからは人が飛び降りていきました。よほど熱かったのでしょうか。3~4人手をつないで落ちる人、窓にしがみついていたが力尽きて人形のように落ちる人、手足を泳ぐように動かして落ちる人。

突然轟音がしてビルが沈んでいきます。ビルの後ろからまた飛行機が突っ込んだのだと思いました。すると自分の方に大きながれきがぐるぐる回りながら向かってくるではありませんか。黒い煙に追いかけれながら、必死でマンハッタンの海際まで逃げました。しかし足ががくがくして止まりません。娘がいる保育所ががれきの中に見えなくなったからです。妻と息子で探しに探し、ついにその夜に対岸のニュージャージーの米軍基地に保護されていたところを見つけ出しました。

私は感謝の気持ちで包まれました。「こんなめにあっても、家族も自分も生きている。頂いた命、世のため人のために捧げたい」と強く思いました。アパートはぐっちゃぐちゃで半年戻れませんでした。避難していたアパートで生き方を根本から見つめ直しました。偶然目に付いたのが稲盛和夫氏のリーダー養成塾、イナモリフェローの募集広告でした。自分の想いを書いて応募し、採ってくれました。

稲盛氏は経営に誠実、謙虚、思いやり、感謝という価値を重んじます。当たり前のこと、全ての宗教も大事とされていること。しかし、実践はとても難しいことです。稲盛氏は27才の時に創業しましたが、その頃から一緒に働いている方から、「稲盛さんは創業時からずっと同じことを言っていた」と聞き、京セラを大企業までにした稲盛氏は本物の人物だと思いました。

その稲盛氏は政治の重要性を説かれます。そして当時の政治を嘆かれます。私は政治の世界に入ることを決意しました。それから妻を説得し、子供を言い聞かせてふるさと愛媛に戻ってきました。それが2006年の夏でした。

2 なぜ民主党なのか

民主党に対する批判や不支持の意見の方々が多くおられます。しかし、民主党の根本を確認し、そこが間違っているのでは根本からおかしいし、根本は正しいのであれば、ただやり方がおかしいということ。私は後者だと思います。

理念：

私は民主党の根本である立党の理念に感銘し民主党でやっていく決心を固めました。それは「私達は既得権益の構造から排除された方々の立場に立ちます」というものです。自分には力もやる気もあるのに、何かの”仲間”ではないことによって、取引や関係づくりの機会から排除されてしまったこと。皆さんも経験があるのではないのでしょうか？そのような見えない壁が「既得権益の構造」であります。民主党はそこから阻害、排除されている方々の立場に立つものです。私の生き方としたいことがここにありました。

めざす社会：

めざす社会は格差是正をする社会。それも効果的に格差是正をする社会です。まず自由経済を肯定し受け容れます。そこに努力した人、上手にやった人とそうでなかった人との差ができるのは必然です。差ができるところに励みを感じるのも自然です。そこで格差の是正も闇雲に行うのではなく、重点を絞ります。それは、「若い人、次の世代に格差を持ち越させないこと」格差の固定化を防ぐ、連鎖を断ち切るべく格差是正を行うこと、です。

つまり、若い人が結婚し希望するだけの子どもを持つことができるようにすること。子ども達は親の経済状況が乏しくても意思と能力さえあれば、しっかりとした教育を受けることができ、這い上がることができる。そのような社会です。

失業や事業の失敗があっても、ひいてはそのまま老後を迎えることになっても、最低限の生活の目処がたつ。そのことに確信をもてるようにする。だからこそ、失敗へのおそれ、おびえを振り切って、思い切って自由経済に挑戦する。大きくグローバルな自由経済に挑むことができる。リスクはあっても必要な投資や消費をすることができるようにすること。そこに社会保障と経済活性の順回転が生まれま

- | 格差を放置するのではなく、全ての格差をなくすのでもない、
- | 大きな政府にせずして、子どもを増やし、社会の活力を高める、
- | 効果的に格差是正をする社会をめざしていこうではありませんか。

3 年金を守る！ 雇用の為 輸出を伸ばす！

年金を守る！

年金の第一の役割は、人に最低限の生活を保障することです。これを守ることがこれから非常に難しく、その分大事になっています。年金生活者のうち、低年金で家族の扶養がない独り身の方々が増えてくるからです。年金生活者にとってこれからの生活が不安です。また今、年金保険料を払っている現役の方々にとっては、一体自分達の番になって、自分達の分があるのか不安になっています。つまり、年金は大事なだけあって不安の元にもなっています。このことが日本社会を萎縮させ、縮小させています。

ですから私は、年金事務局長を志願して仰せつかって取り組んでいるところです。新しい年金、つまり一元的で最低保障年金のある制度の設計大枠が終了しました。問題を解決するため、他党も案を持ち寄って国民会議で政策合意していくべきだと思います。

輸出を伸ばす！

雇用の為、この地でモノ作りをし、輸出し資源代金を稼ぐ為の基盤作りが政治の使命です。現在の日本は資源の乏しい国で、石油などを海外から輸入しなければなりません。その為、輸入先を確保し、シーレーンを守り、代金として恒常的に毎年20兆円相当の外貨を稼ぐ必要があります。

それだけの外貨はまずモノ作りをし輸出をして大方の獲得をし、サービス収益や投資収益で補完することが現実的です。日本人のモノ作り力は強みであり、過去から持続してきた競争優位性だからです。

ですから日本は貿易立国であることを宿命づけられているといえるでしょう。雇用を守る為にも高度な経済連携を求めていくべきと考えます。愛媛は果樹農業県ですがかんきつを外に売っていく、打って出ていくことによってむしろ活路が開け、地域が活性化すると思います。

民主党はこれまで多くの離党者を出しました。「消費税上げる前にやることがある。」主としてこのことを巡ってです。その気持ちも解らない訳ではありません。”やるべきこと”を党のなかで職責を通じて少しでも実現に向けて努力するか、外に出て別に道を探すかの違いです。私は、中からしっかり変えていく道を探っていきます。なかでも、議員定数削減は大切だと思います。

以上、全て何をするにしても次の難関を乗り越えなければなりません。なにとぞお力を貸して頂きますようお願い申し上げます。